



人工知能時代の医療と医学教育

高橋優三編著. -- 篠原出版新社, 2016.

REVIEWER

医学部医学科2回生

技術革新による医療現場の変化に対応していくために

「人工知能(AI)の医療への進出により、現在の医師の仕事はなくなるだろう。」
医学生なら、このような意見を耳にしたことがあると思う。実際はどのようなのだろうか。

本書の前半では医療情報技術の発展と、それに伴う医療制度の変化について予測がなされている。人工知能を指して、「ベテラン医を上回る全知全能の神」など、情報技術の未来に関しては輝かしい語句が並んでいる一方で、医師の将来については厳しい言葉が並んでいる印象だ。

後半では主に、「人工知能時代の医療」そして、それを支えるべき人材を育成する「今現在の医学教育」に求められていることに関する幅広い考察がある。変化に対応できる柔軟性を持った人材をどのように育成するべきかについて、様々な意見を知ることができる。遠隔教育のMOOCなど、学生が自ら実践できることも書かれているので、長期的な学習の参考にもなるだろう。

本書は多様な背景の著名な研究者による寄稿で構成されていて、データベースの有用性に対する期待感や(1章4)現在の医学教育が十分に柔軟でないことへの危機感(2章3)など、医療の情報化に対する多様な意見を知ることができる。遠隔医療や離島医療の視点(2章1)、地域医療の視点(2章3)からの考察などもあり興味深い。タブレット端末の活用事例(1章3)や医学教育における基礎統合実習(4章1)の取り組みなど、新しい試みについても紹介されている。

医療の情報化に興味のある人はもちろん、加えて、医師の将来になんとか不安を感じているという人にも、この本をおすすめしたい。

498

14

Ta 33

医図開架

[医学部医学科2回生]

受理：2017-01-17

京都大学医学図書館
Medical Library, Kyoto University